



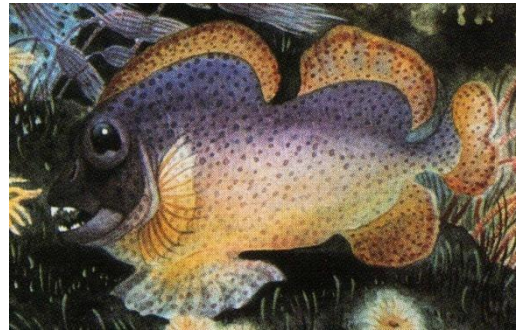
化石館だより

コラム

金生山は魚類化石の宝庫

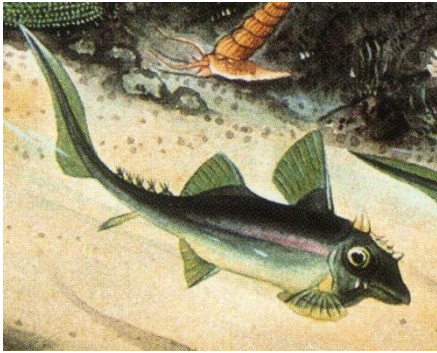
前回の化石館だよりで、金生山の赤坂石灰岩から多数の魚類化石が産出していることをお伝えしました。赤坂石灰岩からは、硬骨魚類も軟骨魚類も見つっていますが、硬骨魚類については属や種の特定が進んでいません。近年研究が進んできたのは軟骨魚類の歯についてです。なお軟骨魚類の骨格は化石としては残りにくいので、残念ながら骨の化石は見つかりません。

金生山で最初に見つかったのは、ペタロドゥス類の歯でした。これは赤坂石灰岩の下部層から大倉正敏によって発見されたもので、1979年の日本古生物学会で村田正文により '*Neopetalodus*' sp. として報告されました。この化石については、金生山化石研究会編の「金生山 その文化と自然」(1981)でも解説されています。ペタロドゥス類は、全頭類に属する古生代の軟骨魚類で、花びら状の歯をもち、幅の広い胸鰭をもった特異な形の魚だったと考えられています。この魚の形体は、近似種のペラントセアから推定されているものです。なおペタロドゥス類の歯は、赤坂石灰岩の下部層だけでなく最上部層からも発見されています。



1988年には、同じ赤坂石灰岩の下部層から板鰓類に属するシンモリウム類の *Symmorium* sp. を含む多くの魚の歯化石が記載されています。板鰓類は、現在のサメやエイを含むグループで、軟骨魚類の主流を構成しています。シンモリウム類は、古生代最古でサメの先祖とされるクラドセラケ類に近いもので、*Symmorium* sp. の歯は大きな主咬頭と両側の側咬頭の間小さな突起があり、典型的なクラドドゥス型をしています。

なお、同層からはアクロドゥス科と思われる歯化石が見つっていますが、アクロドゥス科は三畳紀以降にしかな知られていませんので、これがアクロドゥス科であると認められれば世界最古のアクロドゥス科の化石になるようです。



コクリオドゥス類は、現生のギンザメに似た全頭類に属する軟骨魚類です。赤坂石灰岩からは4種のコクリオドゥス類の歯化石が見つっています。コクリオドゥス類の形体については、ベアガルチ石灰岩から数種の全身化石が発見されており、ギンザメに似た形であったことが分かっています。なおギンザメはサメという名をもちますが、いわゆるサメ類ではありません。サメ類とよぶ板鰓類の魚には数対の鰓があるのですが全頭類には一対の鰓しかありません。全頭類は古生代に枝分かれした軟骨魚類の一グループなのです。

金生山の赤坂石灰岩からは11種という多くの魚類化石が見つっています。日本で発見されている古生代魚類化石は、後藤仁敏(2002)によると33種あり、その内でペルム紀のものは22種となっています。赤坂石灰岩から見つかる魚類化石は11種ですから、日本の古生代魚類化石全体の33%、ペルム紀に限れば50%を占めていることとなります。この数字からみると、後藤が記しているように「赤坂石灰岩は日本が誇る世界的な古生代魚類化石の宝庫」と言えそうです。

赤坂石灰岩は、現在のサンゴ礁のような熱帯域の浅海で堆積したと考えられていますが、太古においても現在のサンゴ礁と同じく多くの魚たちが群れ泳いでいたようです。

(文責：高木洋一)

参考：後藤仁敏(1999) 赤坂石灰岩の魚類化石 神奈川県立生命の星・地球博物館図録 P72-77
後藤仁敏(2002) 日本の古生代サメ化石研究 神奈川県立生命の星・地球博物館図録 P90-96 他

お知らせ

化石講演会

2月11日(日曜・祝日) 午後1時30分から 大垣市サイトピアセンターで開催します。

演題： 多様な化石ザメたち ～金生山にもサメがいた！～
講師： 高桑祐司 先生 (群馬県立自然史博物館 学芸係主幹(学芸員))
入場は無料です。 事前申し込みも不要です。直接会場へお出かけください。

問い合わせ： 大垣市金生山化石館 電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)
Email kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp